

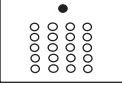
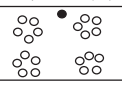
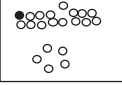
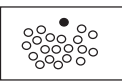
(部分)責任実習 指導計画

実習指導者

印

実習生氏名

印

20xx 年 ○ 月 ○ 日 ( △ )		場 所	ホール(遊戯室)
主な活動 (題材)	日本伝承踊り(荒馬)		実習 クラス ( 5 )歳児 ( たか )組 男児(10)名 女児(10)名 計(20)名
幼児の姿 (前日までの 幼児の姿を 多面的に捉 えて書く)	グループの話し合いが少しずつできるようになってきた。クラスでは、荒馬のかけ声が流れており、移動中に「ラッセーラーラッセーラー」と大きな声で歌っている子どもも見られる。昨日は、散歩に出かけようとする、「馬をつけたい!」という声があがり、馬をつけて散歩にでかけるほど、馬が好きになってきている。散歩中は、掛け声の掛け合いをしながら楽しそうに歩く姿も見られた。		保育活動 のねらい ・友達と息を合わせながら一緒に踊ることができる。 ・グループで話し合っ、簡単な構成を考え、発表することができる。 ・お囃子に合わせて踊ることを心地よく感じ、自分なりの表現を楽しむ。 ・他のグループの発表を見て、良いところを真似しようとする。
時間	環境構成	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮
10:00 (導入)	<ホール> ●: 保育者 ○: 子ども 	○馬を着けて保育者のところへ集まる ・自分の馬を取りに行き自分で馬を着ける。 ・グループごとに並んで座る。 ・保育者の説明を聞き、今日は荒馬の踊りの構成をグループで考えて発表することを覚える。	・馬を取りに行き、馬を着けてグループごとに集合することを伝える。 ・全員が集合しているかを、グループのリーダー(今日の当番)に確認するよう伝える。 ・馬を着けることに時間がかかる子どもには援助する。 ・今日は、これまで覚えた3つの振り(かまえ・2つ跳び・4つ跳び)と掛け声の組み合わせをグループで考え、最後にグループごとに発表することを伝える。
10:10 (主活動) ※サブシ ート参照	<準備物> ・馬:20体 ・太鼓:1個 ・バチ:1セット 	○グループで話し合いをし踊りの練習をする ・グループごとに分かれて、踊りの順番を話し合う。 ・発表に向けて踊りの練習をする。	・困っているグループがあれば、話し合いの様子を見ながら必要に応じて、アドバイスをする。 ・様子を見ながら、グループ練習を終わるように声をかける。
10:30		○グループごとに発表をする ・発表の順番を知る。 ・他のグループの発表を見る。 ・自分のグループの発表をする。 ・グループの発表ごとに、よかったところを伝え合う。	・発表をするため、グループごとに分かれて壁際に座るよう伝える。 ・発表順を伝える。 ・子どもたちの様子を見ながら太鼓を叩く。
10:45 (まとめ)		○感想を出し合い振り返りをする ・馬を外して馬の置き場に持って行く。 ・保育者のまわりに集まる。 ・グループでの話し合いでよかったことや困ったこと等を出し合う。困ったことについては、解決策を全員で考え合う。 ・次回に期待感をもつ。	・馬を外して馬の置き場に持っていき保育者のところへ集まるように伝える。 ・グループでの活動について感想を聞く。 ・困ったことがあった場合は、解決策を考えられるように全体に返すようにする。 ・次回は格好いい自分なりの表現ができるように踊ることを伝え、期待感をもって終わるようにする。
自己振り返り・評価等	春から取り組んでいる荒馬を選んだが、踊り込んでいるだけあり、子どもたちは自分たちで話し合い、踊りの順番を決めることができた。話し合いに参加しにくい子どもが数名いたが、まわりの子どもたちが声をかけたり呼びに行ったりする姿が見られ、さすが5歳児だと思った。いつもおとなしいAちゃんが、大きな声で掛け声をかけている姿から、掛け声をかけると友達か返してくれる嬉しさがあるのかなと思い、掛け声で友達を感じているように伺えた。話し合いは難しいかと思っしたが、しっかりと友達の意味を聞いたり、自分の意見を言ったりする姿がたくさん見られ成長を感じることができた。最後のまとめの時間は集中が切れてしまっって、うまくまとめることができなかったので、次の活動に期待がもてるように具体的な活動の提案等を用意しておく必要があった。子どもたちの踊りに合わせながら太鼓を叩くことができるよう事前にしっかりと練習をしておくことが大切だと思った。私の太鼓に合わせて子どもたちが踊ってくれたことがとても嬉しく感じた。子どもたちがつもつと心地よく踊ることができるように、私もつと太鼓がうまくなるように練習しようと思った。		